

Yamagata University

Annual Report 2021

2020事業年度
事業と財務に関するレポート

資料編

■大学基本情報

● 沿革	01
● 組織図	03
● 役員・各委員等	05
● 教職員数	08
● 在学者数／● 留学生数	09
● 都道府県別志願者・入学者数	11
● 学位授与者数／● 卒業者数累計	12
● 卒業者・修了者就職状況	13
● サークル一覧	14
● 国際的な学術誌への掲載論文数／● 地域企業等(東北全体)との共同研究数／	
● 大学間交流協定締結数／● キャンパス面積／● 予算額／● 附属病院収益	16
● 研究費・外部資金等受入実績	17

■財務データ

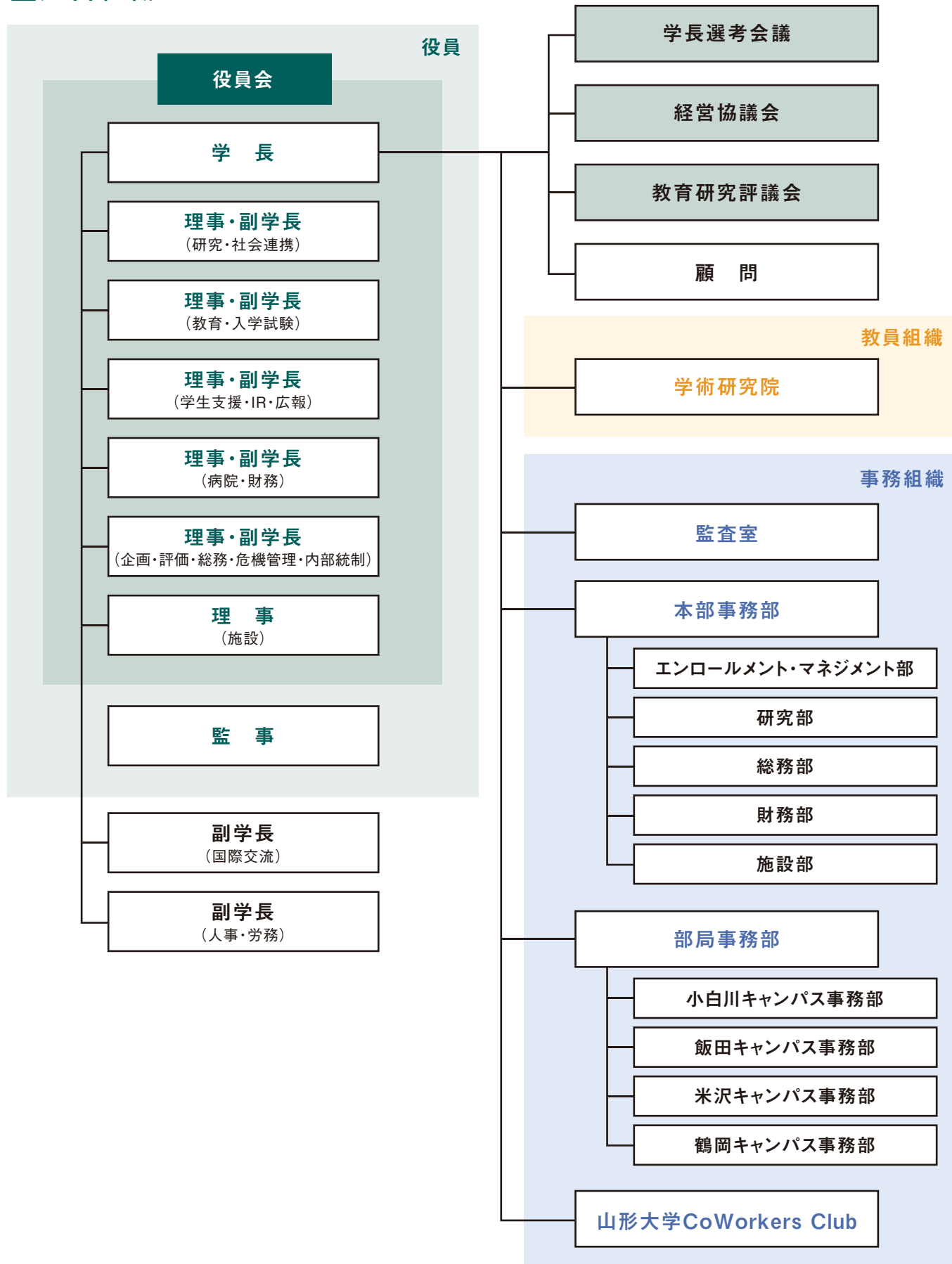
● ファイナンシャルハイライト(2020事業年度)	18
● 財務指標(2020事業年度)	19
● 学部・研究科等別決算情報(2020事業年度)	22

沿革

平成 元年	平成 10年	平成16年4月 国立大学法人化	平成 20年	平成 30年	令和 3年
	人間文化学科 総合政策学科 (平8・4学科改組)	人間文化学科 法経政策学科 (平18・4学科改組)		人文社会科学部 人文社会科学科(平29・4設置)	
	数理科学科／物理学科 物質生命化学科／生物学科 地球環境学科(平7・4学科改組)			理学科(平29・4学科改組)	
	小学校教員養成課程 中学校教員養成課程 養護学校教員養成課程 総合教育課程 (平4・4増設)	学校教育教員養成課程 生涯教育課程 人間環境教育課程 (平11・4課程改組)	地域教育文化学科(平17・4設置) 地域教育学科 文化創造学科 生活総合学科 地域教育文化学科 (平24・4学科改組)		
	※山形大学附属へ(平17・4)				
	医学科 看護学科 (平5・4増設)				
	物質工学科 機械システム工学科 電子情報工学科 (平2・4学科改組)	機能高分子工学科 物質化学工学科 機械システム工学科 電気電子工学科 情報科学科 応用生命システム工学科 (平12・4学科改組)	機能高分子工学科 物質化学工学科 バイオ化学工学科 応用生命システム工学科 情報科学科 電気電子工学科 機械システム工学科 システム創生工学科 (平22・4学科改組)	高分子・有機材料工学科 化学・バイオ工学科 情報・エレクトロニクス学科 機械システム工学科 建築・デザイン学科 システム創成工学科 (平29・4学科改組)	
	生物生産学科 生物環境学科(平3・4学科改組)	生物生産学科・生物環境学科 生物資源学科(平10・4学科改組)	食料生命環境学科 (平22・4学科改組)		
	農学部附属やまがたフィールド科学センター(平18・7設置)				
	(平8・4廃止)		基盤教育院(平21・10設置)	学士課程基盤教育機構(平29・4改組)	
	教育学研究科(平5・4設置) 理学研究科／医学研究科／工学研究科(平5・4修士改組、博士設置) 農学研究科	社会文化システム研究科(平9・4設置) 教育学研究科／医学系研究科(平9・4名称変更) 理工学研究科(平11・4名称変更)／農学研究科	社会文化システム研究科 地域教育文化研究科(平21・4設置) 医学系研究科／ 理工学研究科／農学研究科 教育実践研究科(平21・4設置)	社会文化システム研究科 地域教育文化研究科 医学系研究科 理工学研究科 有機材料システム研究科 (平28・4設置) 農学研究科 教育実践研究科	社会文化創造研究科 (令3・4設置) 医学系研究科 理工学研究科 有機材料システム研究科 農学研究科 教育実践研究科
	岩手大学大学院連合農学研究科(平2・4設置)				
	※山形大学附属に(平17・4) 附属中学校、附属小学校、附属幼稚園 附属特別支援学校(平19・4附属養護学校を名称変更)				
	平21・10学部等へ移管 小白川図書館、医学部図書館 工学部図書館、農学部図書館				

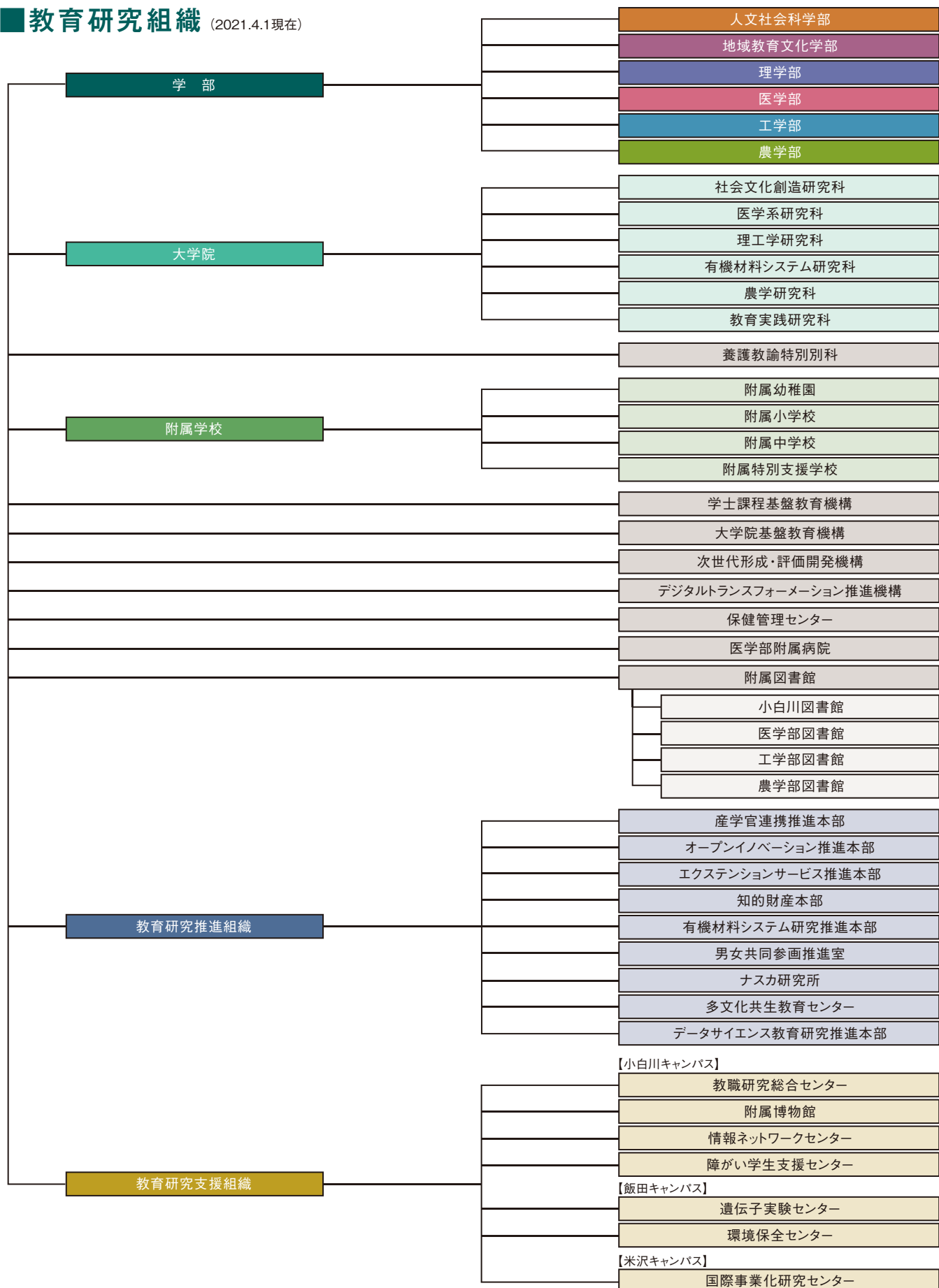
組織図

運営組織 (2021.4.1現在)



組織図

教育研究組織 (2021.4.1現在)



▶ 役員・各委員等

(2021.4.1現在)

■ 学長・理事・副学長・監事

学長	玉手 英利	理事(非常勤)(施設担当)	額 額 晃
理事(研究、社会連携担当)・副学長	飯塚 博	副学長(国際交流担当)	林田 光祐
理事(教育、入学試験担当)・副学長	出口 毅	副学長(人事・労務担当)	羽鳥 政男
理事(学生支援、IR、広報担当)・副学長	矢作 清	監事	渡辺 均
理事(病院、財務担当)・副学長	根本 建二	監事(非常勤)	大森 夏織
理事(企画、評価、総務、危機管理、内部統制担当)・副学長	花輪 公雄		

■ 経営協議会委員

学内委員	玉手 英利	飯塚 博	出口 毅	矢作 清	根本 建二
	花輪 公雄	額 額 晃	佐藤 慎哉		
学外委員	相澤 益男	(国立研究開発法人科学技術振興機構 顧問)			
	井上 弓子	(高島電機株式会社 代表取締役会長)			
	小林 裕明	(株式会社山形新聞社 取締役論説委員長)			
	里村 正治	(フィデアホールディングス株式会社 名誉顧問)			
	鈴木 道子	(米沢栄養大学・米沢女子短期大学 名誉教授)			
	西海 和久	(株式会社ブリヂストン エクスターナルアドバイザー)			
	萩原 なつ子	(立教大学21世紀社会デザイン研究科 研究科委員長)			
	長谷川 真理子	(総合研究大学院大学 学長)			
	吉村 美栄子	(山形県知事)			

■ 教育研究評議会評議員

玉手 英利	飯塚 博	出口 毅	矢作 清	根本 建二	花輪 公雄
額 額 晃	林田 光祐	羽鳥 政男	是川 晴彦	大森 桂	大西 彰正
上野 義之	中島 健介	村山 秀樹	伊藤 浩志	三上 英司	佐藤 慎哉
本多 薫	中西 正樹	並河 英紀	川前 金幸	落合 文吾	渡部 徹

■ 学長選考会議委員

経営協議会選出委員	相澤 益男	井上 弓子	小林 裕明	里村 正治
	鈴木 道子	西海 和久	長谷川 真理子	
教育研究評議会選出委員	是川 晴彦	大森 桂	大西 彰正	上野 義之
	中島 健介	村山 秀樹	佐藤 慎哉	

■ 顧問

安房 毅	小野木 覺	嘉山 孝正	川崎 禮子	寒河江 浩二	佐藤 孝弘
須貝 英彦	土田 秀也	中川 勝	中目 千之	長谷川 吉茂	船橋 吾一
松村 英一	皆川 治	矢野 秀弥			

▶ 役員・各委員等

(2021.4.1現在)

■ 学部長・副学部長

人文社会科学部	学部長	是 川 晴 彦				
	副学部長	本 多 薫	鈴 木 亨	コーエンズ 久美子		
地域教育文化学部	学部長	大 森 桂				
	副学部長	中 西 正 樹	佐 藤 博 晴			
理学部	学部長	大 西 彰 正				
	副学部長	並 河 英 紀	金 井 塚 勝 彦			
医学部	学部長	上 野 義 之				
	副学部長	川 前 金 幸	後 藤 薫	佐 藤 慎 哉	浅 尾 裕 信	
		中 島 修	永 瀬 智	齋 藤 貴 史		
工学部	学部長	中 島 健 介				
	副学部長	落 合 文 吾	野 々 村 美 宗	湯 浅 哲 也	伊 藤 浩 志	
農学部	学部長	村 山 秀 樹				
	副学部長	渡 部 徹	村 山 哲 也	塩 野 義 人		

■ 研究科長・副研究科長

社会文化創造研究科	研究科長	是 川 晴 彦				
	副研究科長	大 森 桂				
医学系研究科	研究科長	上 野 義 之				
理工学研究科	研究科長	中 島 健 介				
	副研究科長	大 西 彰 正				
有機材料システム研究科	研究科長	伊 藤 浩 志				
農学研究科	研究科長	村 山 秀 樹				
教育実践研究科	研究科長	大 森 桂				

■ キャンパス長

小白川キャンパス	清 塚 邦 彦				
飯田キャンパス	上 野 義 之				
米沢キャンパス	中 島 健 介				
鶴岡キャンパス	村 山 秀 樹				

▶ 役員・各委員等

(2021.4.1現在)

■ 事務部

エンrollment・マネジメント部

エンrollment・マネジメント部長	小 山	和 佳
教育課長	伊 藤	真 由 美
学生支援課長(兼務)	小 山	和 佳
入試課長	辻	紀 彦
国際交流課長	今 野	浩 美

研究部

研究部長	沼澤	利 光
研究推進課長(兼務)	沼澤	利 光
産学・地域連携課長	五 味	康 信

総務部

総務部長	高 橋	正 敏
企画IR課長	川 田	正 之
総務課長	佐 竹	弘 顕
人事課長	東 海 林	守 一
労務課長	菅 井	和 明

財務部

財務部長	佐 藤	秀 雄
財務課長	安 倍	泉 妃
経理課長	齋 藤	敏 宏

施設部

施設部長	平 野	正 幸
施設企画課長	宍 戸	佳 広
施設整備課長	三 浦	正 弘

小白川キャンパス事務部

小白川キャンパス事務部長	池 野	尚 美
総務課長	高 橋	勝 俊
学務課長	片 桐	茂 則
入試課長	佐 藤	俊 次

飯田キャンパス事務部

飯田キャンパス事務部長	阿 部	幸 治
総務課長	篠 塚	清 幸
経営戦略課長	鳥 前	貴 志
管理課長	矢 萩	信 美
学務課長	長 南	靖
研究支援課長	海 野	博 之
医事課長	平	昭 彦

米沢キャンパス事務部

米沢キャンパス事務部長	金 生	周 篤
総務課長	阿 部	賢 二
会計課長	海 野	真 紀 子
学務課長	菊 地	吉 見
研究支援課長	庄 司	三 輝

鶴岡キャンパス事務部

鶴岡キャンパス事務部長	斉 藤	勤 也
総務課長	小 野	秀 勝
学務課長(兼務)	斉 藤	勤 也

▶ 教職員数

(2021.5.1現在)

区 分	学長	理事	監事	教授	准教授	講師	助教	助手	教諭	計	医療	技術	事務	計	常勤 合計
学 長	1									1				0	1
理 事		6(1)								6(1)				0	6(1)
監 事			2(1)							2(1)				0	2(1)
監査室										0			1	1	1
法人本部				3						3			1	1	4
エンロールメント・マネジメント部				2						2		2	23	25	27
研究部				2	1					3			6	6	9
財務部										0			18	18	18
総務部					1					1			34	34	35
施設部										0		15	2	17	17
小白川キャンパス事務部										0	4	2	69	75	75
飯田キャンパス事務部										0		6	86	92	92
米沢キャンパス事務部				1	1					2	1	6	41	48	50
鶴岡キャンパス事務部										0	1	3	19	23	23
YUCWC										0		1	38	39	39
小白川キャンパス					1					1			1	1	2
人文社会科学部				43	32	3				78				0	78
地域教育文化学部				30	19	8				57				0	57
大学院教育実践研究科				8	5					13				0	13
理学部				41	18	5	10	1		75		3		3	78
医学部					1	1	5	2		9	1	20		21	30
大学院医学系研究科				41	31	18	83	1		174				0	174
医学部附属病院				1	6	23	62	1		93	998	6		1,004	1,097
米沢キャンパス				4	7		7			18		7	3	10	28
工学部										0		36		36	36
大学院理工学研究科				51	52		31			134			3	3	137
大学院有機材料システム研究科				20	7		7			34				0	34
農学部				25	26		11			62		11		11	73
学士課程基盤教育機構				5	13	1				19				0	19
大学院基盤教育機構				1						1				0	1
保健管理センター				1	1					2				0	2
附属学校									89	89				0	89
合 計	1	6(1)	2(1)	279	222	59	216	5	89	879(2)	1,005	118	345	1,468	2,347 (2)
781															

※()内の数は非常勤で内数 ※技術には、施設系、図書系を含む

▶ 在学者数(学部)

(2021.5.1現在)

区 分		学科・課程	入学定員	3年次 編入学定員	収容定員	現員
人文学部		人間文化学科	2017.4 学生募集停止			7
		法経政策学科				11
		小計				18
人文社会科学部		人文社会科学学科	290	20	1,200	1,283
		小計	290	20	1,200	1,283
地域教育文化学部		地域教育文化学科	175		700	723
		小計	175		700	723
理学部		理学科	210		840	910
		数理科学科	2017.4 学生募集停止			3
		物理学科				4
		物質生命化学科				2
		生物学科				3
		地球環境学科				0
		小計	210		840	922
医学部		医学科	113		708	730
		看護学科	60	5	250	245
		小計	173	5	958	975
工学部	昼間 コース	高分子・有機材料工学科	140		560	593
		化学・バイオ工学科	140		560	590
		情報・エレクトロニクス学科	150		600	634
		機械システム工学科	140		560	608
		建築・デザイン学科	30		120	126
		機能高分子工学科	2017.4 学生募集停止			8
		物質化学工学科				1
		バイオ化学工学科				2
		応用生命システム工学科				0
		情報科学科				3
		電気電子工学科				7
		小計	600		2,400	2,572
	フレックス コース	システム創成工学科	50		200	222
		小計	50		200	222
農学部		食料生命環境学科	165		660	683
		小計	165		660	683
合 計			1,663	25	6,958	7,398

▶ 在学者数(大学院・別科)

(2021.5.1現在)

■ 大学院

区 分		入学定員	収容定員	現員
社会文化創造研究科	修士課程	24	24	25
社会文化システム研究科	修士課程	2021.4 学生募集停止	12	20
地域教育文化研究科	修士課程		14	16
医学系研究科	博士課程	26	104	122
	博士前期課程	22	44	39
	博士後期課程	7	26	35
	小計	55	174	196
理工学研究科	博士前期課程	257	521	562
	博士後期課程	21	63	63
	小計	278	584	625
有機材料システム研究科	博士前期課程	98	183	197
	博士後期課程	10	30	48
	小計	108	213	245
農学研究科	修士課程	32	68	73
教育実践研究科	専門職学位課程	20	40	37
合 計		517	1,129	1,237
岩手大学大学院連合農学研究科	博士課程	24	72	93(26)

※現員欄の()内数字は、山形大学(指導教員)に属する学生数で内数

■ 別科

区 分	入学定員	現員
養護教諭特別別科	40	40

▶ 留学生数

学部／127

大学院／104

(2021.5.1現在)

▶ 都道府県別志願者・入学者数

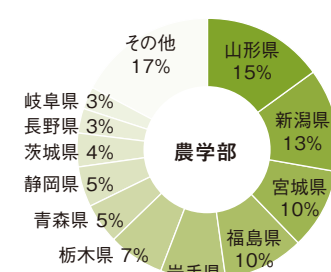
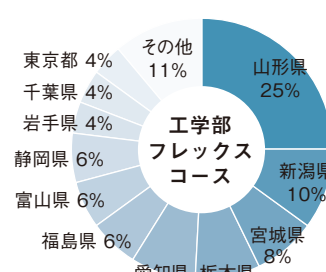
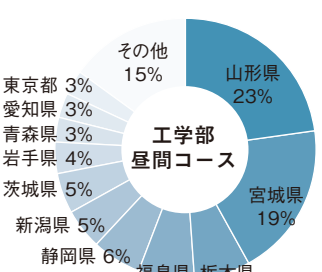
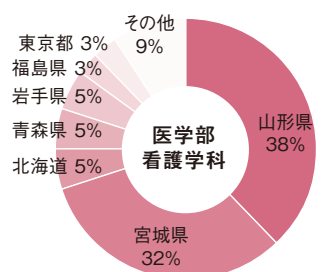
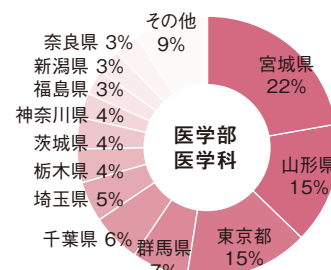
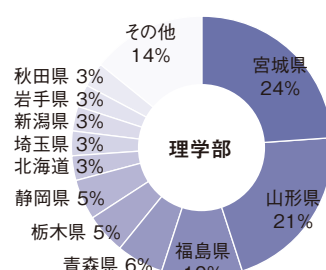
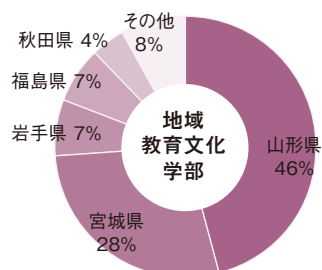
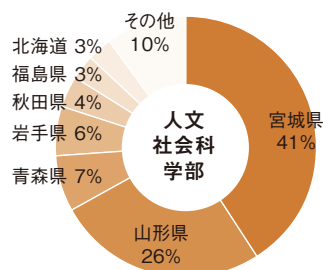
(2021.5.1現在)

■ 学部別

2021年度における各学部への入学者数の上位県です。

合計 入学者数 1,622人 志願者数 5,032人

※社会人と外国人留学生を除く。



■ 都道府県別

2021年度における都道府県別の入学者数と志願者です。(都道府県 入学者数/志願者数)

九州地方

福岡県	2/8
佐賀県	0/0
長崎県	1/2
熊本県	1/1
大分県	1/8
宮崎県	1/5
鹿児島県	1/5
沖縄県	4/14

中国地方

鳥取県	0/0
島根県	1/2
岡山県	3/7
広島県	1/4
山口県	0/0

近畿地方

三重県	4/13
滋賀県	1/2
京都府	3/9
大阪府	5/16
兵庫県	5/22
奈良県	3/5
和歌山県	0/6



東北地方

青森県	68/151
岩手県	81/197
宮城県	397/1,229
秋田県	37/109
山形県	417/1,135
福島県	105/332

関東地方

茨城県	47/167
栃木県	83/256
群馬県	28/86
埼玉県	28/97
千葉県	22/88
東京都	44/167
神奈川県	9/69

北陸・中部・東海地方

新潟県	72/289
富山県	12/24
石川県	6/14
福井県	2/7
山梨県	3/17
長野県	17/62
岐阜県	10/24
静岡県	61/152
愛知県	33/79

四国地方

徳島県	1/3
香川県	0/0
愛媛県	2/6
高知県	1/1

その他(認定試験等)

3/13

▶ 学位授与者数

(2021.5.1現在)

種 別	2020年度				累 計			
	修士	博士		教職修士	修士	博士		教職修士
研究科		課程	論文			課程	論文	
社会文化システム研究科	11	-	-	-	300	-	-	-
地域教育文化研究科	11	-	-	-	160	-	-	-
医学系研究科	25	20	4	-	448	829	610	-
理工学研究科	288	18	-	-	9,936	587	106	-
有機材料システム研究科	83	7	-	-	315	17	-	-
農学研究科	29	-	-	-	1,271	-	-	-
教育実践研究科	-	-	-	21	-	-	-	225
(教育学研究科)	-	-	-	-	630	-	-	-
(理学研究科)	-	-	-	-	616	-	-	-
合 計	447	45	4	21	13,676	1,433	716	225

▶ 卒業者数累計

(2021.5.1現在)

区 分	2020年度	累 計
人文社会科学部(人文学部含む)	326	13,015
地域教育文化学部(教育学部含む)	183	19,840
理学部	177	8,061
医学部	192	6,169
工学部	601	33,430
農学部	157	9,330
文理学部(昭和46年4月1日 廃止)	-	2,509
工業短期大学部(昭和60年10月1日 廃止)	-	2,367
合 計	1,636	94,721

▶ 卒業者・修了者就職状況

(2021.4.1現在) ※2020年9月卒業・修了を含まない。

学部

所属(学部)	卒業者数	進学者数	就職希望者数	就職者数	就職率	就職状況内訳	
						県内	県外
人文社会科学部(人文学部含む)	320	5	281	281	100.0%	86	195
地域教育文化学部	181	17	139	139	100.0%	73	66
理学部	176	64	99	99	100.0%	21	78
医学部※1	192	9	54	54	100.0%	21	33
工学部 昼間コース	556	315	213	208	97.7%	27	181
工学部 フレックスコース	39	18	19	19	100.0%	5	14
農学部	156	31	120	120	100.0%	20	100
学部 計	1,620	459	925	920	99.5%	253	667

※1 医学部において、臨床研修医は就職者に含めない。

大学院

所属(研究科)	卒業者数	進学者数	就職希望者数	就職者数	就職率	就職状況内訳	
						県内	県外
社会文化システム研究科	11	1	7	7	100.0%	4	3
地域教育文化研究科	11	0	10	10	100.0%	4	6
医学系研究科	40	1	39	39	100.0%	31	8
理工学研究科(理)	56	9	46	46	100.0%	12	34
理工学研究科(工)	242	1	222	218	98.2%	9	209
有機材料システム研究科	86	11	70	70	100.0%	5	65
農学研究科	29	1	24	24	100.0%	4	20
教育実践研究科	21	0	19	19	100.0%	18	1
大学院 計	496	24	437	433	99.1%	87	346

別科

所属(別科)	卒業者数	進学者数	就職希望者数	就職者数	就職率	就職状況内訳	
						県内	県外
養護教諭特別別科	39	0	34	34	100.0%	9	25

留学生

所 属	卒業者数	進学者数	就職希望者数	就職者数	就職率	就職状況内訳	
						県内	県外
学部留学生	10	1	4	4	100.0%	2	2
大学院留学生	31	3	10	10	100.0%	4	6

■ 小白川キャンパス

小白川キャンパス合計 102

体育系

- clover〜硬式テニスサークル〜 ● KingKidsサークル ● SALIBANDY部 ● Style&表現研究会
- アーチェリー部 ● 合気道部 ● アイスホッケー部 ● アクアライフ ● 汗をかく会 ● アメリカンフットボール部
- 居合道同好会 ● 空手道部 ● 基礎スキー同好会 ● 弓道部 ● 競技舞蹈部 ● 剣道サークル ● 剣道部
- 硬式庭球部 ● 硬式野球部 ● 小白川バスケットボール会 ● 小白川ビリヤードサークル
- コピーダンスサークルtwinkle ● 自然に親しむ会 ● 自転車部 ● 柔道部 ● 少林寺拳法部 ● 女子サッカー部
- 女子バスケットボール部 ● 女子バレーボール部 ● 女子ハンドボール部 ● 水泳部 ● スキー部
- スノーボードサークル「FreeStyle」 ● 漕艇部 ● ソフトテニス同好会 ● ソフトテニス部 ● ソフトボールサークル
- 卓球部 ● 男子サッカー部 ● 男子バスケットボール部 ● 男子バレーボール部 ● 男子ハンドボール部
- チアダンスサークル「Cherries」 ● トライアスロン部 ● 軟式野球部 ● バーベルクラブ
- バドミントンサークルスマッシュNo.1 ● バドミントン部 ● 花笠サークル「四面楚歌」 ● パラグライダー部
- バレーすっぞの会 ● バレーボール同好会 ● フェンシング部 ● フットサル同好会 ● フライングディスク同好会
- ボウリング部 ● ボクササイズサークル ● ラグビー部 ● 陸上競技部 ● ワンダーフォーゲル部

文化系

- IF(InternationalFriendship) ● IVYyouth ● JAZZ研究会 ● JCC ● アカペラサークル「Smile」
- 囲碁将棋部 ● うたごえサークルとまり火 ● 裏千家茶道サークル千歳 ● 映画研究会 ● 演劇集団舞台工房
- お笑いサークル ● 音楽愛好会 ● 音楽研究会 ● かるた部 ● くるみぼたんの会 ● 軽音楽研究会
- 劇団めざましどけい ● 混声合唱団 ● 茶道部 ● ジャグリング同好会 ● 写真部 ● 障害児教育研究会
- 書道部 ● 吹奏楽団 ● 聖書研究水曜会 ● チーム道草 ● 地学研究会 ● てるてるぼうず ● ドットジェイピー
- 美術部 ● フィルハーモニーオーケストラ ● フリーペーパーサークル"Y-ai" ● 文芸部 ● 放送研究会
- 学び場プラス ● 漫画研究会 ● マンドリンクラブ ● ラジオサークルHBK ● 料理サークル「CUCINA」
- 歴史学研究会 ● 史跡サークル ● 篠笛愛好会

■ 飯田キャンパス

飯田キャンパス合計 32

体育系

- バレーボール部 ● 卓球部 ● バスケットボール部 ● 少林寺拳法部 ● 空手道部 ● 水泳部 ● ラグビー部
- 陸上競技部 ● 柔道部 ● ゴルフ部 ● ヨット部 ● 弓道部 ● バドミントン部 ● 競技スキー部 ● 硬式テニス部
- ソフトテニス部 ● 準硬式野球部 ● サッカー部 ● 剣道部 ● フットサル部 ● ハンドボール部
- ソフトボール部 ● 合気道部 ● ワンダーフォーゲル部

文化系

- DoD(Dance or Die)ダンス部 ● 室内合奏団 ● 聖書研究会 ● 軽音楽部 Sound Room ● 同窓会新聞部
- 映画部 ● 将棋部 ● YMSA(Yamagata Medical Student Association)

(2021.8.1現在)

■ 米沢キャンパス

米沢キャンパス合計 61

体育系

- ARK(バスケットボールサークル) ●アーチェリー部 ●アクアライフ ●アメリカンフットボール部
- 居合道同好会米沢支部 ●基礎スキー同好会Big Boots ●弓道部 ●球友会 ●剣道部 ●硬式庭球会
- 硬式庭球部 ●硬式野球部 ●小白川バスケ会米沢支部 ●サイクリングサークル ●サッカー部 ●サリバンディ部
- 自然に親しむ会 ●自転車競技部 ●自動車部 ●柔道部 ●少林寺拳法部 ●漕艇部工学部支部 ●卓球部
- ソフトテニス部 ●バスケットボール部 ●バドミントン同好会 ●バドミントン部 ●パラグライダー部
- バレーボール部 ●表現研究会 ●フットサルサークル ●陸上競技部 ●和道流空手道部 ●ワンダーフォーゲル部
- 花笠サークル四面楚歌工学部支部 ●工学部WorkOut

文化系

- JAZZ研究会 ●アカデミースtrings合奏団 ●アカペラサークルLien ●吾妻祭実行委員会【大学祭】
- 囲碁・将棋部 ●音楽サークル 青い空 ●ギターマンドリンクラブ ●グリークラブ ●軽音楽研究会
- 劇団スピリッツ ●国際交流サークルYUICY ●茶道部 ●ジャグリングサークル
- 人力飛行機研究会(クラフト・パル) ●吹奏楽団 ●聖書研究会 ●地学研究会 ●マイクロコンピュータ研究会
- 漫画研究会 ●無線研究会 ●模型サークル ●ゆきんこ ●ロボタスティクス ●写真サークルTAKE!
- 工学部VR部

■ 鶴岡キャンパス

鶴岡キャンパス合計 38

体育系

- アーチェリー部 ●合気道部 ●SALIBANDY鶴岡支部 ●T.O.F.C. ●弓道部 ●陸上競技部
- 農学部自転車部 ●自然に親しむ会 ●鶴岡 ビリヤードサークル ●少林寺拳法部 ●農学部ソフトテニス部
- 卓球部 ●農学部花笠サークル四面楚歌 ●バスケットボール部(UYTC) ●バドミントン部 ●バレーボール部
- フットサルサークル ●ワンダーフォーゲル部 ●アクアライフ ●軟式野球サークル(ニャートルズ)
- フライングディスク同好会 ●和道流空手道部 ●漕艇部 ●アメリカンフットボール部鶴岡支部

文化系

- 山形大学生協学生委員会 OH.ONE!?鶴岡 ●うたごえサークルとまり火 ●地学研究会
- タキタロウボランティアサークル ●森の民 ●フィルハーモニーオーケストラ ●マンドリンクラブ ●吹奏楽団
- 重音楽研究会 ●ジャグリングサークル ●テーブルゲームの会 ●献血推進サークルCrane crane
- アカペラサークルSmile★鶴岡支部 ●鶴岡農学部JAZZ研究会

▶ 国際的な学術誌への掲載論文数

824

※2020年に書誌データベース等に収録分を計上

▶ 地域企業等(東北全体)との共同研究数

64件

※2020年度実績

▶ 大学間交流協定締結数

90

(2021.4.1現在)

アメリカ	オクラホマ大学、 テキサス大学アーリントン校、 ハワイ大学コミュニティカレッジ、 プレスビテリアンカレッジ
アルメニア	ロシア＝アルメニア(スラヴ)大学
イギリス	マンチェスター大学人文科学学部 ヨーク・セントジョン大学
イタリア	バルマ大学、トリノ大学
インドネシア	ガジャマダ大学、 モハメディアン大学、 パジャジャラン大学
エストニア	タリン大学
オランダ	ライデン大学、ハーグ応用科学大学
カナダ	モントリオール大学
韓国	仁済大学校、済州大学、 全南大学校、大邱大学校、 漢陽大学校、世宗大学
ケニア	ジャモケニヤッタ農工大学
スペイン	サラマンカ大学、リエイダ大学

タイ	コンケン大学、スラナリー工科大学、 チェンマイ大学、 モンクット王ラカバン工科大学、 ラジャマンガラ工科大学タニヤプリ校、 泰日工業大学、 プリンスオブソクラ大学
台湾	銘傳大学、台湾師範大学、 中山大学、輔仁大学、 文藻外語大学、国立中興大学、 国立台湾科技大学
中国	延辺大学、河南師範大学、 吉林大学、黒竜江ハルビン農墾大学、 上海工程技術大学、 大連理工科大学、 東北電力大学、青島農業大学、 哈爾濱工業大学、福建師範大学、 北京林業大学、山西師範大学、 広西師範大学
チリ	タルカ大学
ドイツ	ライプニッツ・ハノーヴァー大学
パキスタン	コムサツ情報科学大学

フィリピン	サン・カルロス大学、 シリマン大学、エンデラン大学
フランス	アンジェ大学
ブルネイ	ブルネイダルサラーム大学
ベトナム	ベトナム国家農業大学、カントー大学、 ハノイ国家大学自然科学大学、フエ大学
ベナン	アボメカラビ大学
ペルー	カトリカ大学、サン・マルコス国立大学、 ペルー国立工科大学、 ラ・モリーナ国立農業大学、 サンイグナシオデロヨラ大学、
ボリビア	サンアンドレス大学
マレーシア	マラヤ大学、マレーシア工科大学
モンゴル	新モンゴル学園、モンゴル人文大学、 モンゴル生命科学大学
ラトビア	ラトビア大学
リトアニア	ビリニウス大学
ロシア	M.K.アモースフ記念北東連邦大学、 プリヤート国立大学

▶ キャンパス面積

(2021.4.1現在)

主要キャンパス	面 積
小白川キャンパス(法人本部、人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部など)	約12ha
飯田キャンパス(医学部、附属病院など)	約19ha
附属学校園(松波・飯田西)	約8ha
米沢キャンパス(工学部、国際事業化研究センターなど)	約15ha
鶴岡キャンパス(農学部、やまがたフィールド科学センターなど)	約784ha
主要キャンパス 計	約838ha

▶ 予算額

443億円

※2021年度

▶ 附属病院収益

206億円

※2020年度実績

▶ 研究費・外部資金等受入実績

(2020年度末時点)

■ 2020年度 受託研究受入実績

(単位:千円)

直接経費	間接経費	合 計
1,103,529	263,847	1,367,376

■ 2020年度 共同研究受入実績

(単位:千円)

直接経費	間接経費	合 計
686,241	103,810	790,051

■ 2020年度 受託事業受入実績

(単位:千円)

直接経費	間接経費	合 計
367,041	20,713	387,754

■ 2020年度 補助金等交付実績

(単位:千円)

直接経費	間接経費	合 計
2,284,187	8,797	2,292,984

■ 2020年度における主な補助金交付実績

(単位:千円)

名 称	交付元	直接経費	間接経費	交付額合計
山形県新型コロナウイルス感染症患者入院病床確保対策事業費補助金	山形県	573,582	0	573,582
大学等における修学の支援に関する法律による令和2事業年度授業料等減免費交付金	文部科学省	313,495	0	313,495
地域産学官連携 科学技術振興事業費補助金	文部科学省	311,142	0	311,142

■ 2020年度 科学研究費補助金等交付実績

(単位:千円)

件 数	直接経費(相当額)	間接経費	合 計
543	851,912	210,682	1,062,594

※受入額は、年度内の転入・転出及び分担者への送金等を差引した金額である。また、件数は交付決定の件数。

▶ ファイナンシャルハイライト(2020事業年度)

■ ファイナンシャルハイライト

(百万円)

	2019年度	2020年度	増減(前年比)
貸借対照表			
資産	124,346	121,243	△ 3,102
負債	54,015	49,414	△ 4,601
純資産	70,331	71,829	1,498
損益計算書			
費用	42,351	42,633	282
収益	43,470	43,771	300
運営費交付金収益	11,455	10,751	△ 704
授業料等収益	5,062	5,004	△ 57
附属病院収益	21,135	20,616	△ 518
受託・寄附金等収益	3,122	3,202	79
その他	2,694	4,196	1,501
当期総利益	1,119	1,137	18
(うち目的積立金予定額)	(660)	(859)	199
キャッシュ・フロー計算書			
業務活動によるキャッシュ・フロー	4,386	3,033	△ 1,353
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,361	191	1,552
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,681	△ 1,810	△ 128
資金期末残高	4,225	5,639	1,413
国立大学法人等業務実施コスト計算書			
国立大学法人業務実施コスト	13,528	19,691	6,162

注) 百万円未満を切り捨てているため、合計額が一致しない場合があります。

2020事業年度は、費用426億円に対し、収益は437億円となり、当期総利益は11億円となりました。

国からの交付金の減少等により運営費交付金収益が7億円減少し、新型コロナウイルス感染拡大に伴う附属病院での病棟閉鎖や手術の抑制により、附属病院収益が5億円減少しましたが、外部資金獲得の積極的な取組や補助金等の支援により、外部資金等の収益が13億円増加し、また、経費節減等の経営努力もあり、前期と同等の総利益となっております。

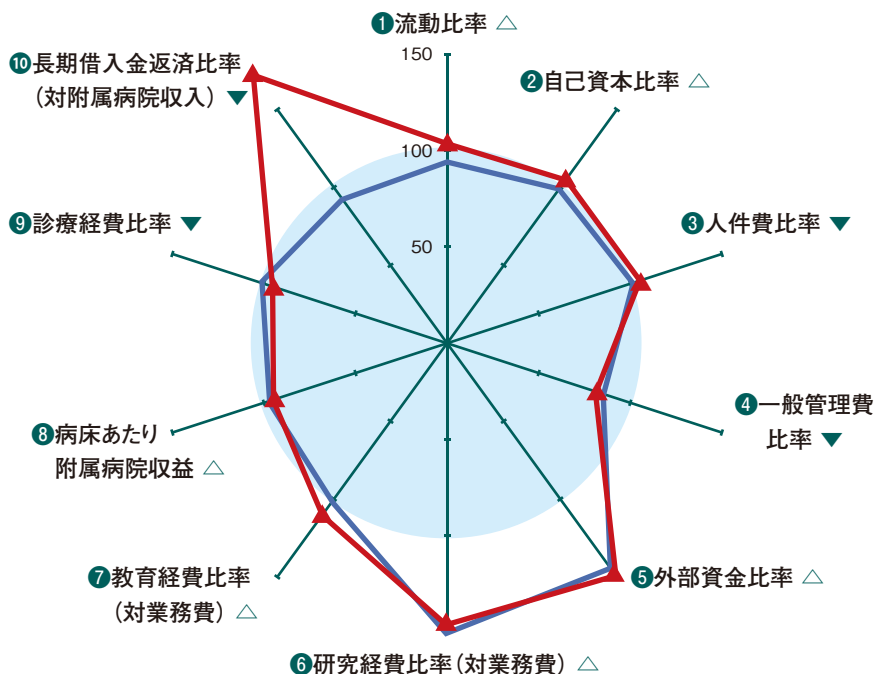
なお、当期総利益のうち8億円については、文部科学省の承認後、目的積立金として2021年度以降の施設・環境整備事業等に充てられます。

今後も、教育・研究・診療に力を注ぎ、外部資金の獲得などによる自己収入の確保及び一層の経費抑制に努め、健全な財務運営を行ってまいります。

▶ 財務指標 (2020事業年度)

■ 山形大学の財務状況

主要な財務指標の同規模24大学の平均に対する割合



左のグラフは、同規模24大学の平均を100(水色の円)として、本学の状況を表示したものです。外側に表示されているほど、良好な状況であることを示しています。

※⑩長期借入金返済比率がR1年度に比べR2年度が大きく変化しておりますが、これは新型コロナウイルスの影響により病院収入が減少したため、借入金返済の猶予措置が行われたことによります。

①流動比率 △ (健全性)

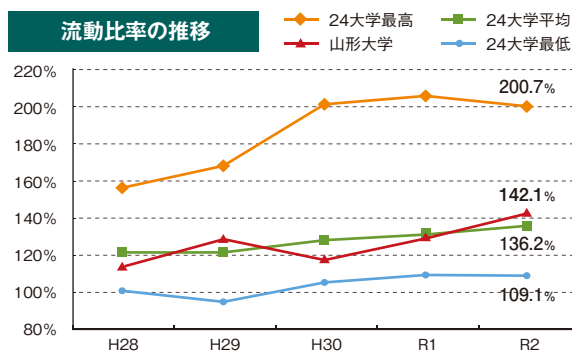
一年以内に償還又は支払うべき債務(流動負債)に対して、一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度確保されているかを表します。

$(\text{流動資産}) \div (\text{流動負債}) \times 100$

流動資産159億円、流動負債112億円を計上した結果、流動比率は142.1%となりました。有価証券の償還に伴う現金及び預金の増加等により前年度に比べ比率が増加しています。

24大学中 7位

流動比率の推移



②自己資本比率 △ (健全性)

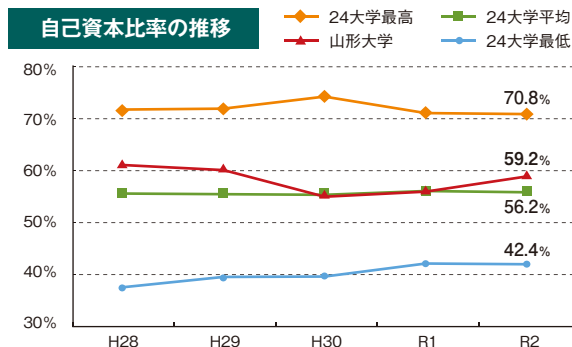
総資産に対して、返済義務のない自己資本(純資産)が占める割合を表します。借入等の負債の割合が多いほど数値は低くなります。

$(\text{純資産}) \div (\text{資産}) \times 100$ ※資産=負債+純資産(自己資本)

総資産1,212億円、純資産718億円を計上した結果、自己資本比率は59.2%となり、同規模大学の平均よりもやや高い数値となっています。

24大学中 8位

自己資本比率の推移



同規模24大学とは、文部科学省の定める分類で、医学部を有する収容定員が一人未満の国立大学法人のことで、以下の大学になります。なお、東海国立大学機構が設置されたことに伴い、今回の集計より岐阜大学を除いています。

弘前大学、秋田大学、山形大学、群馬大学、富山大学、金沢大学、福井大学、山梨大学、信州大学、三重大学、鳥取大学、島根大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学

※財務指標の評価の考え方は、国立大学財務・経営センター刊行「経営ハンドブック」等を基にしています。

▶ 財務指標 (2020事業年度)

③ 人件費比率 ▼ (効率性)

業務費に対する人件費の占める割合を表します。数値が低いほど、効率的に本業である教育研究へ投資していることを示します。

$$(\text{人件費}) \div (\text{業務費}) \times 100$$

前年度は役員及び教職員の退職者が多く、退職給付金にかかる費用が増加しましたが、令和2年度は、その分の人件費が減少したことにより、前年度と比べ減少しています。また、この比率は同規模大学の平均を下回っています。

24大学中 2位

④ 一般管理費比率 ▼ (効率性)

業務費に対する一般管理費の占める割合を表します。数値が低いほど、効率的に本業である教育研究へ投資していることを示します。

$$(\text{一般管理費}) \div (\text{業務費}) \times 100$$

業務委託費等の増加により、前年度と比べ増加しています。同規模大学の平均と比べても高い数値となっていますので、今後も経費削減・効率化に努めていきます。

24大学中 20位

⑤ 外部資金比率 △ (活動性)

業務収益に対する外部資金収益(受託等収益、寄附金収益)の割合を表します。外部資金をより多く獲得し、活動を行うほど、数値は高くなります。

$$(\text{外部資金収益※}) \div (\text{経常収益}) \times 100$$

※外部資金収益=受託研究収益+共同研究収益+受託事業収益+寄附金収益

全体的に受入額は減少していますが、主に寄附金の繰り越した予算の当期執行額の増加に伴い、収益全体としても増加しています。その結果、比率は増加し、依然として本学は同規模大学でも上位に位置しています。

24大学中 3位

⑥ 研究経費比率(対業務費) △ (活動性)

業務費に対する研究経費の占める割合を表します。本業である研究に投資しているかを示します。(人件費は含んでいません。)

$$(\text{研究経費}) \div (\text{業務費}) \times 100$$

新型コロナウイルスの影響により、研究に関連した旅費が減少したことに伴い研究経費比率は5.9%となり、前年度に比べ0.3%減少しています。しかしながら、依然として本学は同規模大学でも上位に位置しております。今後も活発な研究活動を行っていきます。

24大学中 4位

⑦ 教育経費比率(対業務費) △ (活動性)

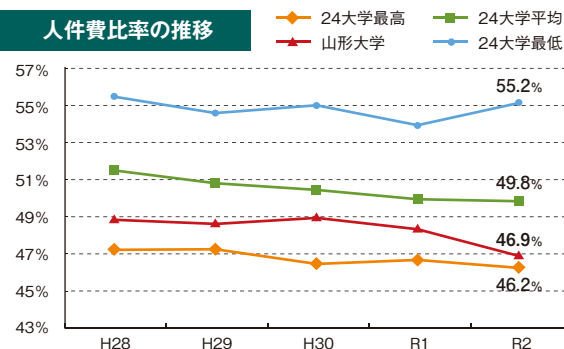
業務費に対する教育経費の占める割合を表します。本業である教育へいかに投資しているかを示します。(人件費は含んでいません。)

$$(\text{教育経費}) \div (\text{業務費}) \times 100$$

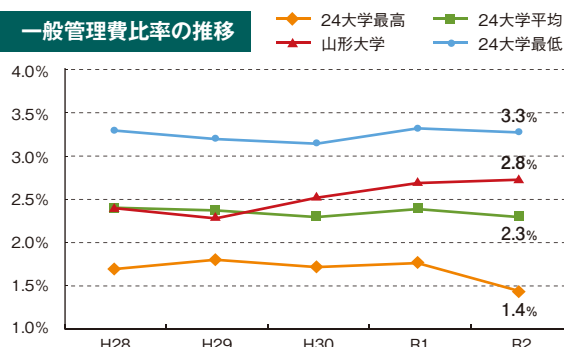
GIGAスクール構想の推進等により、教育経費が増加したことに伴い教育経費比率は4.8%となり、前年度に比べ0.4%増加しました。同規模大学の平均よりもやや高い数値となっており、今後も効率化に努めながら、質の高い教育を行っていきます。

24大学中 6位

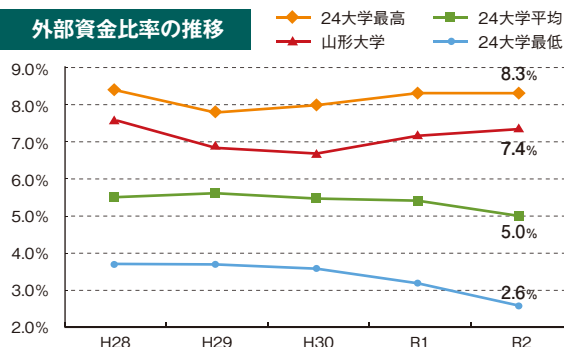
人件費比率の推移



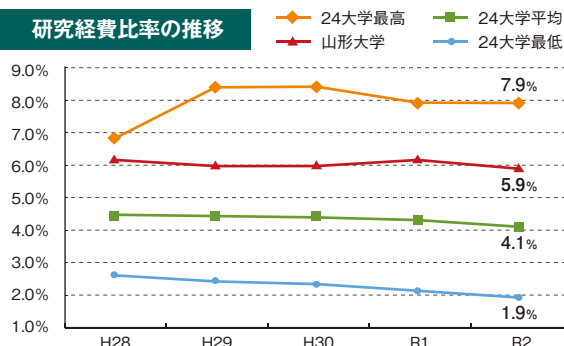
一般管理費比率の推移



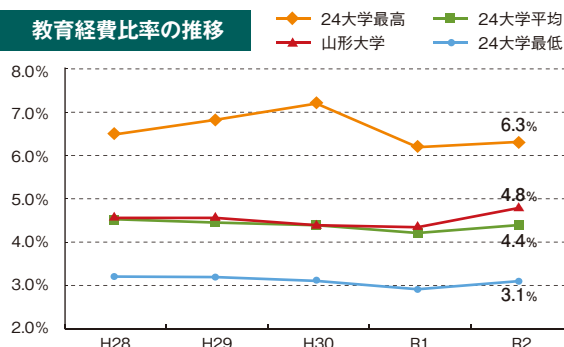
外部資金比率の推移



研究経費比率の推移



教育経費比率の推移



▶ 財務指標 (2020事業年度)

⑧ 病床あたり附属病院収益 △ (収益性)

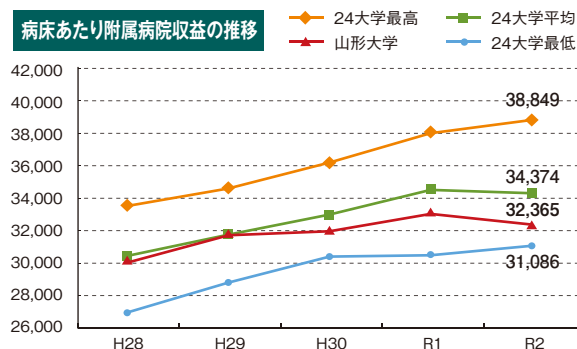
1病床あたりの附属病院収益を表します。この数値が高いほど、より効率的に病院収益を上げていることを示します。

(附属病院収益) ÷ (病床数) × 100 ※山形大学医学部附属病院病床数…637床

新型コロナウイルスの影響により、病棟の閉鎖や手術の抑制を実施した結果、入院患者数の減、手術件数の減などにより附属病院収益は約5億円減少しました。そのため、前年度比で1床あたり814千円減収となりました。

24大学中 17位

病床あたり附属病院収益の推移



⑨ 診療経費比率 ▼ (収益性)

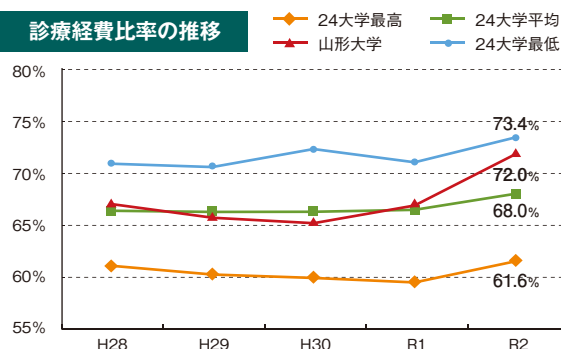
附属病院収益に対する診療経費の割合です。この数値が低いほど、より低コストで収益をあげていることを示します。

(診療経費) ÷ (附属病院収益) × 100

上記⑧に記載したとおり附属病院収益は減少しましたが、新型コロナウイルス関連の補助金が交付され、補助金財源での診療経費が増加したことに伴い診療経費比率は72%となり、前年度に比べ5%増加しています。

24大学中 22位

診療経費比率の推移



⑩ 長期借入金返済比率 (対附属病院収入) ▼ (健全性)

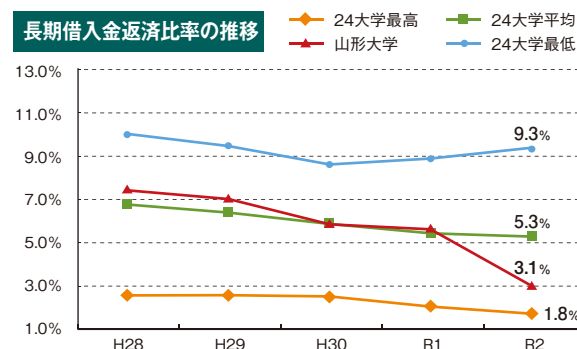
病院収入に対する借入金の返済率で、この数値が低いほど、債務償還の影響が低い健全な経営が行われていることを示します。

(借入返済) ÷ (附属病院収入) × 100

新型コロナウイルスの影響により、病院収入が減少したため借入金返済の猶予措置が行われました。そのため、前年度と比べ比率が大きく減少しています。新型コロナウイルスへの対応が続いていく中ではありますが、今後も続く債務償還に対し、引き続き健全な病院経営に努めていきます。

24大学中 5位

長期借入金返済比率の推移



健全性の指標

①流動比率 ②自己資本比率 ⑩長期借入金返済比率

健全性については、同規模大学よりやや高い数値となりました。新型コロナウイルス対応としての借入金返済の猶予措置も影響していますが、今後も続く附属病院の債務償還にあたり、引き続き健全な病院経営に努めてまいります。

効率性の指標

③人件費比率 ④一般管理費比率

効率性については、人件費比率が同規模大学の平均よりも低く、一般管理費比率については平均より高くなっています。今後も引き続き管理的経費の抑制等への取り組みに努めてまいります。

活動性の指標

⑤外部資金比率 ⑥研究経費比率 ⑦教育経費比率

活動性については、いずれの比率も同規模大学の平均以上の数値となりました。運営費交付金が年々減少していく中、引き続き外部資金の獲得を図り、教育・研究・診療分野の拡大・進展に努めてまいります。

収益性の指標

⑧病床あたり附属病院収益 ⑨診療経費比率

収益性については、新型コロナウイルスの影響などにより厳しい状況が続いております。今後も続いていく附属病院の債務償還にあたり、より一層の改善に努めてまいります。

▶ 学部・研究科等別決算情報(2020事業年度)

現在、開示すべきセグメント情報については、財務諸表附属明細書において「国立大学法人会計基準」に従い、大学、附属病院、附属学校及び法人共通の4区分で公表しております。本学の会計マネジメント改革を推進するため、「学外への見える化」の取り組みとして、セグメント情報の開示を拡大することを検討し、学部・研究科等を加えたセグメント情報を公表いたします。本学の予算管理単位である学部・研究科等をセグメントとして、業務損益及び帰属資産を区分したものとなっておりますが、現在、「国立大学法人会計基準」において明確な統一基準がないため、試行的に実施したものでございますので、何卒、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

(単位:百万円)

区 分	人文社会科学部 社会文化システム研究科	地域教育文化学部 地域教育文化研究科 教育実践研究科	理学部 理工学研究科(理)	医学部 医学系研究科	工学部 理工学研究科(工) 有機材料システム研究科
〈業務費用〉					
業務費	1,113	980	1,267	2,639	6,016
教育経費	145	121	122	190	462
研究経費	53	39	136	564	1,193
診療経費	-	-	-	-	-
教育研究支援経費	-	-	-	51	27
受託研究費	3	2	76	73	779
共同研究費	-	1	14	10	712
受託事業費等	2	6	41	64	127
人件費	908	809	875	1,684	2,713
一般管理費	12	10	26	221	164
財務費用	-	-	-	-	1
雑損	-	-	-	-	-
小 計	1,126	991	1,293	2,861	6,182
〈業務収益〉					
運営費交付金収益	647	583	598	1,166	1,874
学生納付金収益	814	506	612	622	2,006
附属病院収益	-	-	-	-	-
受託研究収益	2	2	83	31	927
共同研究収益	-	1	15	13	759
受託事業等収益	3	6	42	67	141
寄附金収益	1	4	15	189	105
施設費収益	-	-	2	113	243
補助金等収益	-	-	-	29	303
資産見返負債戻入	6	31	46	177	395
財務収益	-	-	-	-	-
雑益	-	-	6	41	105
小 計	1,475	1,137	1,423	2,453	6,864
業務損益	348	145	129	△ 407	681
〈帰属資産〉					
土地	1,468	2,727	2,579	5,555	3,585
建物	1,122	1,440	1,467	5,063	12,432
構築物	16	10	39	263	683
その他	45	30	191	4,233	2,900
帰属資産	2,652	4,209	4,277	15,115	19,600

▶ 学部・研究科等別決算情報(2020事業年度)

(単位:百万円)

区 分	農学部・ 農学研究科	法人本部等	東日本重粒子センター	附属学校	附属病院	合 計
〈業務費用〉						
業務費	1,400	3,125	672	1,060	22,908	41,186
教育経費	177	491	-	273	8	1,995
研究経費	123	60	223	-	21	2,418
診療経費	-	-	431	-	14,420	14,852
教育研究支援経費	6	316	-	-	-	402
受託研究費	63	1	-	-	105	1,107
共同研究費	11	-	-	-	-	750
受託事業費等	60	21	-	-	15	339
人件費	958	2,230	17	786	8,335	19,320
一般管理費	41	516	18	1	119	1,132
財務費用	-	8	2	-	117	130
雑損	-	17	-	-	3	23
小 計	1,443	3,668	692	1,061	23,148	42,472
〈業務収益〉						
運営費交付金収益	660	2,204	41	855	2,116	10,751
学生納付金収益	432	-	-	7	-	5,004
附属病院収益	-	-	-	-	20,616	20,616
受託研究収益	74	1	-	-	160	1,283
共同研究収益	14	-	-	-	-	804
受託事業等収益	63	23	-	-	16	367
寄附金収益	43	61	304	11	9	747
施設費収益	3	4	-	62	-	430
補助金等収益	3	496	-	64	871	1,769
資産見返負債戻入	54	46	17	24	97	901
財務収益	-	6	-	-	-	6
雑益	60	456	-	6	91	770
小 計	1,411	3,309	363	1,032	23,980	43,453
業務損益	△ 31	△ 357	△ 329	△ 28	832	981
〈帰属資産〉						
土地	2,307	9,236	-	4,796	5,637	37,894
建物	1,133	2,400	6,040	1,957	10,512	43,572
構築物	158	154	79	74	814	2,295
その他	596	14,434	6,273	39	8,734	37,480
帰属資産	4,195	26,230	12,392	6,867	25,698	121,243

※百万円未満を切り捨てているため、合計額が一致しない場合があります。

※法人本部等には学士課程基盤教育機構、保健管理センター、小白川キャンパス事務部、図書館、学術情報センター、法人共通(現金等)を含む。

▶ 学部・研究科等別決算情報(2020事業年度)

■ 人文社会科学部・社会文化システム研究科

業務費用 (百万円)	
業務費用	1,113
教育経費	145
研究経費	53
受託研究費	3
受託事業費等	2
人件費	908
一般管理費	12
小 計	1,126
業務収益 (百万円)	
運営費交付金収益	647
学生納付金収益	814
受託研究収益	2
受託事業等収益	3
寄附金収益	1
その他の業務収益	6
小 計	1,475
業務損益 (百万円)	348

※百万円未満を切り捨てているため、合計額が一致しない場合があります。(以下、同様)

▶ 「安全安心な社会の実現に繋がる価値創造」の研究の集約と情報公開を目的とした安全安心価値創造研究所を人文社会科学部に開所しました。研究者、学生、地域住民、地域行政が参加可能な拠点となることを目指します。現代社会では、交通事故や災害、精神的な健康の悪化、環境破壊など様々な安全・安心に関するリスクがあります。このようなリスクは科学と社会の双方に関わる問題です。その解決のためには、科学者が住民や行政機関に対して適切な知識や知見を発信するとともに、リスク低減のための方法について科学者、住民、行政機関間で合意形成をして進めていく必要があります。このようなニーズに応えるために、2013年に地理学、社会学、心理学、情報科学の教員が中心となり「山形市における安心・安全に関する学際的研究」プロジェクトをスタートし、研究成果の蓄積と情報公開を続けてきました。本研究所では、様々な分野の研究者が連携し、実験やフィールドワーク、統計的調査などの科学的な手法を組み合わせ、複眼的な視点で問題を検討します。



■ 地域教育文化学部・地域教育文化研究科・教育実践研究科

業務費用 (百万円)	
業務費用	980
教育経費	121
研究経費	39
受託研究費	2
共同研究費	1
受託事業費等	6
人件費	809
一般管理費	10
小 計	991
業務収益 (百万円)	
運営費交付金収益	583
学生納付金収益	506
受託研究収益	2
共同研究収益	1
受託事業等収益	6
寄附金収益	4
その他の業務収益	31
小 計	1,137
業務損益 (百万円)	145

▶ 地域教育文化学部と山形地方気象台は、防災に関する教育・研究での相互協力を推進する連携協定を締結しました。本学部では、防災教育に対して積極的に取り組んでおり、特に児童教育コース(小学校教員養成課程)では、「教員になるための学校防災」を平成27(2015)年度から開設し、平成29(2017)年度からは必修科目として毎年開講しています。教育職員免許法の改正により、平成31(2019)年度からは、学校安全への対応が教職課程において必須となりましたが、本学部では防災教育の必修化を、先行して導入を行ってきたこととなります。今回の協定では、これまでの大学への講師派遣に加えて、より幅広くまた双方向的な連携協力を目指して、気象台職員研修や同台による地域防災、学校防災の取組に山形大学の教員や学生が参画する教育機会の拡充を計画しています。また、互いの防災に関する知識や知見をいかして研究協力も推進し、その成果は山形県内をはじめとして、学校防災、地域防災への貢献が期待されます。

▶ 地域教育文化学部は山形県小国町と包括連携協定を締結しました。地域活性化に向けた教育・研究に関する協働活動を通じ、地域社会の発展と地域で活躍する人材の育成を目指します。小国町とは、町役場、企業や学校などを通じて、地域活性化に向けた教育や研究に関する複数の協働活動が進行しており、このような連携を包括的にまとめ、今後、より強固かつ持続的に発展させていくことに合意しました。本学部が小国町で実施してきた実習をより包括的に充実・発展させ、小国町の地域社会の発展や人材育成を目指します。

▶ 学部・研究科等別決算情報(2020事業年度)

■ 理学部・理工学研究科(理)

業務費用 (百万円)	
業務費用	1,267
教育経費	122
研究経費	136
受託研究費	76
共同研究費	14
受託事業費等	41
人件費	875
一般管理費	26
小計	1,293
業務収益 (百万円)	
運営費交付金収益	598
学生納付金収益	612
受託研究収益	83
共同研究収益	15
受託事業等収益	42
寄附金収益	15
施設費収益	2
その他の業務収益	52
小計	1,423
業務損益 (百万円)	129

▶ 山形の自然の恵みと脅威について科学する「山形大学災害環境科学研究センター」を開所しました。山形県の自然災害と自然環境の特性を探究し、高度な知識と防災に資する情報を地域に発信するための拠点とすることを目指します。山形県は県域の85%を山地が占め、日本百名山の月山・鳥海山・飯豊山、日本三大急流の最上川、全市町村に温泉地を擁する自然の魅力にあふれる県です。一方、近年全国的に地震・噴火・豪雨などの自然災害が多発しており、山形県においても、2019年の山形県沖地震や2020年の豪雨による河川の氾濫などを観測しております。今後も風水害・火山噴火・内陸直下型地震・日本海の津波など安全を脅かす種は尽きません。本センターは、これらの地球のもたらす恵みと脅威に関する探究の推進と普及啓発を目的とし、(1)山形の自然の魅力に関する研究と普及活動、(2)自然災害に関する事前・事後研究と社会的啓蒙、(3)発災時緊急調査に取り組み、地域に寄り添い連携をとりながら活動します。



■ 医学部・医学系研究科

業務費用 (百万円)	
業務費用	2,639
教育経費	190
研究経費	564
教育研究支援経費	51
受託研究費	73
共同研究費	10
受託事業費等	64
人件費	1,684
一般管理費	221
小計	2,861
業務収益 (百万円)	
運営費交付金収益	1,166
学生納付金収益	622
受託研究収益	31
共同研究収益	13
受託事業等収益	67
寄附金収益	189
施設費収益	113
補助金等収益	29
その他の業務収益	218
小計	2,453
業務損益 (百万円)	▲407

▶ 医学部とソウル大学病院は、重粒子線治療と放射線及び生物医学研究における友好関係と国際協力を推進することを目的として、協力協定を締結しました。協定期間は、5年間(更新有り)です。ソウル大学病院では、山形大学が導入した重粒子線がん治療装置「山形モデル」をベースとした粒子線治療装置導入を決定し、昨年、東芝エネルギーシステムズ株式会社と受発注契約を締結いたしました。2024年には重粒子線治療を含む粒子線治療開始を目標としています。これにより、互いに粒子線治療の発展と放射線医学及び生物医学の研究について協力して推進することが可能となります。

▶ 山形県コホート研究(Yamagata Study)の代表的な研究成果として、ソーシャル・サポート(人と人とのつながりや助け合い)の有無が生存率に与える影響についてデータ解析を行った結果、男性、独居者、高学歴の方はソーシャル・サポートが得にくい傾向等が明らかとなり、初めて日本人地域住民のソーシャル・サポート「人と人とのつながり・助け合い」と特に機能的な面(助け合い)が、病気の発症と寿命に関連することを科学的に明らかにしました。その他、コホート研究のデータを使用した国際共同研究(世界33コホート92万人のデータを用い、尿中のアルブミン濃度と尿蛋白濃度の換算式を作成した研究)が、世界5大医学雑誌の一つである米国内科学会誌(Annals of Internal Medicine:2019年Impact Factor 21)に掲載されました。

▶ 学部・研究科等別決算情報(2020事業年度)

■工学部・理工学研究科(工)・有機材料システム研究科

業務費用 (百万円)	
業務費用	6,016
教育経費	462
研究経費	1,193
教育研究支援経費	27
受託研究費	779
共同研究費	712
受託事業費等	127
人件費	2,713
一般管理費	164
その他の業務費用	1
小 計	6,182
業務収益 (百万円)	
運営費交付金収益	1,874
学生納付金収益	2,006
受託研究収益	927
共同研究収益	759
受託事業等収益	141
寄附金収益	105
施設費収益	243
補助金等収益	303
その他の業務収益	500
小 計	6,864
業務損益 (百万円)	681

▶ 山形大学EDGE-NEXT人材育成プログラムでは、“起業家精神を有する人材の育成”を目的に大学生、一般社会人に加え中高生向けにも幅広いプログラムを実施しています。起業家育成プログラムでは、大学生、社会人が一緒に起業家に必要な精神(マインドセット)と基本知識(スキルセット)を全16回の講義で学び、自分のアイデアを事業化するチーム活動も実施しました。また、山形県内の中高生向けに起業家マインド醸成プログラム「やまがたイノベーションプログラム2020」を実施しました。県内15の中学・高校から35チーム(95名)が参加し、4地区に分かれて地域課題から事業アイデアを創出、事業計画を構築するワークショップを行い、地区予選で選抜された10チームが山形放送を会場に開催されたビジネスプランコンテストで発表、優秀チームを表彰しました。既成概念に捉われない柔軟な発想、創意工夫、果敢な挑戦、明確なビジョンを創出する機会を提供し、起業への興味喚起を図りました。

▶ 米沢市と米沢キャンパスは、両者がこれまで積み上げてきた協力関係をより一層強化し、地域の課題に適切に対応して活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与するため、包括連携協定を締結しました。両者は米沢市が推進する「健康長寿のまちづくり」に係る連携・協力に関する覚書も締結し、今後、山形大学の持つフレキシブル印刷センサ技術等の実証実験など、山形大学の研究シーズを最大限に活用し、「健康長寿のまちづくり」実現に向けた取り組みを協力して推進していきます。

■農学部・農学研究科

業務費用 (百万円)	
業務費用	1,400
教育経費	177
研究経費	123
教育研究支援経費	6
受託研究費	63
共同研究費	11
受託事業費等	60
人件費	958
一般管理費	41
小 計	1,443
業務収益 (百万円)	
運営費交付金収益	660
学生納付金収益	432
受託研究収益	74
共同研究収益	14
受託事業等収益	63
寄附金収益	43
施設費収益	3
補助金等収益	3
その他の業務収益	114
小 計	1,411
業務損益 (百万円)	▲31

▶ 農学部では、2016年度に寄附講座「食料自給圏『スマート・テロワール』形成講座」を設立し、本学部の附属農場を中心として庄内地域に食料自給圏を構築するためのプロジェクトに取り組んできました。2020年度に寄附講座は終了しましたが、新たに「庄内スマート・テロワール構築プロジェクト」を立ち上げ、これまで展開してきた活動を継承し、原料生産から加工、消費に至るまでの一連の循環型システムの構築と、全国各地への波及を目指して取り組んでいます。

▶ 農学研究科とドイツ・ハノーヴァー大学自然科学部では、ダブルディグリープログラム(修士課程)を開始しました。本プログラムは、山形大学とハノーヴァー大学の二つの大学を同時に修了して学位を取得できる制度で、本学では初の取り組みです。山形大学の学生は、修士課程2年の間に1年間のドイツ留学を経験し、ハノーヴァー大学の学生は農学部と農学研究科のある鶴岡キャンパスで1年間学びます。修了要件に必要な単位を取得し、英語での修士論文が合同審査に合格すると、山形大学から修士(農学)、ハノーヴァー大学から修士(理学)の二つの学位が授与されます。

▶ 学部・研究科等別決算情報(2020事業年度)

■ 医学部附属病院

業務費用 (百万円)	
業務費用	22,908
教育経費	8
研究経費	21
診療経費	14,420
受託研究費	105
受託事業費等	15
人件費	8,335
一般管理費	119
その他の業務費用	120
小 計	23,148
業務収益 (百万円)	
運営費交付金収益	2,116
附属病院収益	20,616
受託研究収益	160
受託事業等収益	16
寄附金収益	9
補助金等収益	871
その他の業務収益	188
小 計	23,980
業務損益 (百万円)	832



▶ 附属病院は、「診療科間の垣根を取り払い、病院全体として適切な医療の提供」「情報開示に努め、地域に開かれた病院」「個々の患者さんに適した先進医療の開発・導入」ならびに「厳しい倫理観を持った創造的な医療人の育成」を理念に定め、山形県における特定機能病院、地域がん診療連携拠点病院及び令和元年度より指定を受けたがんゲノム医療拠点病院として高度な医療を提供することで、地域医療の中核的役割を担っています。

▶ 第11回山形県広域連携臨床実習運営会議を開催し、地域医療機関での実習の実施状況、感染症下における継続可能な臨床実習の在り方、今後の臨床実習学生の受け入れ数及びスケジュール等について協議を行いました。広域連携臨床実習の連携先は現在14施設ですが、今後の実習に向けて、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、実習病院等の拡充等について検討していく予定です。また、山形県新型コロナウイルス感染症の状況に応じたオンライン実習支援事業費補助金により、医学部医学科学生を対象に病院等で行う臨床実習に代えてオンラインにより実習に相当する講義を行うため、テレビ会議システムを整備しコロナ禍においても臨床実習が可能な体制を構築しました。

▶ 複数の医療機関でICTを活用し診療情報を共有する村山地域のネットワークのべにばなネットの利用拡大に取り組んだことに加え、「医療情報ネットワークの全県化」により、庄内地域、最上地域、置賜地域の医療施設へのレントゲン画像・検査情報などの提供が容易になり、圏域を越えて受診する患者さんの情報が診療に利用しやすくなりました。圏域を超えた医療施設の利用も増加傾向にあり、今後も継続した運用が見込まれます。院内においては、電子カルテに係る総合医療情報システム利用申請時に、併せてべにばなネット等の利用申請書を送付するなど、利用者の拡大に引き続き取り組んでまいります。

▶ 山形県内において新型コロナウイルス感染症の陽性者が増加し、重症患者の受け入れも多くなり、救急部では検査態勢を整え検査件数の増加に対応しました。本院各診療科の発熱患者に対しても対応しており、重症患者及び発熱の患者が来院した際はいち早く新型コロナウイルス感染症を疑った対応を行いつつ受け入れています。また、院内急変予知コールの基準を制定し運用を開始しており、各診療科に対しても周知徹底を図っています。



▶ 学部・研究科等別決算情報(2020事業年度)

■ 医学部 東日本重粒子センター

業務費用 (百万円)	
業務費用	672
研究経費	223
診療経費	431
人件費	17
一般管理費	18
その他の業務費用	2
小 計	692

業務収益 (百万円)	
運営費交付金収益	41
寄附金収益	304
その他の業務収益	17
小 計	363

業務損益 (百万円)	▲329
------------	------

※2020事業年度においては、治療等を開始するまでに
かかった経費が計上されておりますが、診療報酬の請
求は行っており、診療収益は計上されていません。



▶ 令和3年2月25日、山形大学医学部東日本重粒子センターで重粒子線(炭素イオン線)による治療を開始しました。重粒子線治療は放射線治療の一つで、粒子線治療に分類されます。東北・北海道には粒子線治療施設が4施設ありますが、いずれも陽子線による治療施設であり、重粒子線による治療は東北・北海道地区では東日本重粒子センターが初めてとなります。

【山形大学医学部東日本重粒子センターの特長】

■「重粒子治療装置のある治療棟をコンパクトにしたことにより、総合病院と接続した」ことです。「省エネルギー、省スペース・小型化、運転管理の容易化、廃棄物ゼロ」を目標として掲げ、特に省スペースについては、地下に加速器、上階に治療スペースを配置したキューブ型の建物にすることで、建屋45m四方という設置面積を達成しました。従来、重粒子線の治療施設はサッカー場ほどの面積を必要としましたが、東日本重粒子センターは世界最小を実現し、「山形モデル」と言われるほど治療施設をコンパクトにしたことで、敷地内での治療棟の建設が可能となり、世界で唯一、総合病院と接続しています。

■世界で3台目となる回転ガントリーの導入です。東日本重粒子センターには「固定照射室」と「回転ガントリー照射室」の2室があります。固定照射は水平方向からの照射ですが、回転ガントリーは360度あらゆる角度からビーム照射ができるため、患者さんは治療台の上で仰向けのまま、向きを変えることなく楽な姿勢で治療を受けられます。また、照射方法も世界最高性能の「3Dペンシルビームスキャニング法」を採用し、安全で効果的な治療と省エネルギー性能を実現しました。

■医療ITネットワークを用いて、国内初となる広域連携システムを構築したことです。東北6県のほか、新潟県、千葉県など60以上の基幹病院と連携したことにより、遠方の患者さんも最寄りの病院で治療相談ができることになりました。

▶ 医学部における重粒子線治療については、地元山形県や山形市をはじめとする35市町村、東北経済連合会、地元企業や個人の方々など多くの支援や声援をいただき、構想から15年の歳月を経て実現しました。患者さんの治療はもとより、教育、研究、地域振興など常に使命感を持って治療に当たってまいります。

1 回転ガントリー照射室

2 固定照射室

3 加速器室



▶ 学部・研究科等別決算情報(2020事業年度)

■ 附属学校

業務費用 (百万円)	
業務費用	1,060
教育経費	273
人件費	786
一般管理費	1
小 計	1,061
業務収益 (百万円)	
運営費交付金収益	855
学生納付金収益	7
寄附金収益	11
施設費収益	62
補助金等収益	64
その他の業務収益	30
小 計	1,032
業務損益 (百万円)	▲28

▶ 附属学校は、幼稚園、小学校、中学校及び特別支援学校により構成されており、効率的な学校運営を基に実践的な教育研究を展開することを目的としています。教員養成の質的向上を図るため、人文社会科学部、地域教育文化学部及び理学部の教員を志望する学生の教育実習を、近隣の市町教育委員会の協力を得ながら、附属学校園を中心に受け入れ実施しました。

▶ 幼稚園、小学校、中学校及び特別支援学校間の連携を強化し、円滑な接続と相互交流による一貫性の高い教育に資するため、附属学校園の連携を深めています。加えて、年度計画において定めた「附属学校運営部が中心となり附属学校運営会議等を開催し、大学附属としての特色を活かした学校運営を継続して進める。」の実現のために、附属学校運営部3名が一新された中で、運営部の業務内容及び運営体制の見直しを行い、年間業務の計画的な実施、附属学校運営会議の他に運営部と各校園長との打合せを毎月1回定例的に行うこととし、協議等を充実させました。新型コロナウイルス感染症対策について、運営部及び運営会議の機能が十分発揮され、働き方改革、有識者会議で指摘された課題への対応と将来構想の検討、GIGAスクール構想の推進についての協議を行い円滑な学校運営が進められました。

■ 保健管理センター、図書館、学術情報センター、法人本部等

業務費用 (百万円)	
業務費用	3,125
教育経費	491
研究経費	60
教育研究支援経費	316
受託研究費	1
受託事業費等	21
人件費	2,230
一般管理費	516
その他の業務費用	25
小 計	3,668
業務収益 (百万円)	
運営費交付金収益	2,204
受託研究収益	1
受託事業等収益	23
寄附金収益	61
施設費収益	4
補助金等収益	496
その他の業務収益	508
小 計	3,309
業務損益 (百万円)	▲357

▶ 学内及び地域へSDGsの活用と支援を強化することを目的として、「YU empowering with SDGs」事業を推進することを表明しました。令和2年8月には、「山形県、山形大学及び山形新聞社によるSDGsの推進に向けた共同宣言」を発表しました。山形県におけるSDGsの理念の普及と実践を拡大し、“オール山形”のパートナーシップで、県民誰もが真の豊かさや幸せを実感できる山形県づくりを目指すスタートとするものであり、山形県内の企業、自治体、大学等の各種団体等への参加を呼びかけ、「やまがたSDGs推進ネットワーク」を組織し、山形県民に身近に感じていただけるような取組を目指しています。

▶ 新型コロナウイルスに対する各種対策を行うために、全学として新型コロナウイルス対策経費の確保を行いました。光熱水費及び旅費の削減額、キャンパス経費や学長裁量経費等を計上し、約3億円を確保し、マスク、体温計、アルコール消毒液、パーティションの購入等感染対策の経費に充当しました。

▶ 山形大学基金においては、令和2年4月から、「新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済的困窮学生支援のための緊急募金」を開始し、奨学金貸与や修学支援金給付、大学生協電子マネーの給付等の事業を実施しました。

▶ 感染拡大防止のため、事務業務におけるテレワークを本格的に実施しました。テレワーク用のパソコンの導入やモニター・マイク等備品を大学が購入し、個人に貸し出す等設備面の充実を図るとともに、個人の事情に柔軟に合わせた様々な働き方が可能となりました。